

教育現場のAI活用、はじめの一步

「AIって自分にも使えるんだ」を90分で実感する無料体験会です。校務の時短（領域A）／生徒のAI活用指導（領域B）の2テーマで、別日程・テーマを明示して開催します。

このセミナーのねらい

難しい知識もアカウントも事前準備も不要。スマホ1台あれば参加でき、講師が実際の画面を見せるデモと、その場で各自が触る体験タイムで「帰ったらやってみよう」を1つ持ち帰っていただきます。講師は学習塾ソートアップ代表で、教育とAIを研究する大学院博士後期課程在籍の高須賀惇也が務めます。

基本情報

参加費	無料
時間	90分
形式	対面・オンライン・出張（学校への校内教員研修）のいずれにも対応
想定人数	10～20名
持参物	スマートフォン（あればノートPC）
前提知識	不要
対象	塾の先生・学校（私立・公立）の先生・通信制高校運営者など教育者全般
2つのテーマ	領域A版「校務の時短編」／領域B版「生徒のAI指導編」を別日程で交互開催。告知時にテーマを明示します

2つのテーマ（領域A版・領域B版）

領域A版

教育現場のAI活用 はじめの一步 — 校務の時短編

保護者向け連絡文・小テスト/プリント作成・お知らせ文など、先生自身の「書く・作る」業務をAIで時短する第一歩を体験します。1通5分→30秒、プリント30分→5分の世界を、実際の画面で確かめます。

領域B版

生徒のAI活用、"禁止"から"指導"へ — はじめの一步

生徒はもうAIを使っています。禁止では守れません。自分の出している課題が「AI丸写しが効く課題」かどうかをその場で確かめ、「考えを深める使い方」を生徒に教えられる先生になる第一歩を体験します。

本資料について 学習塾ソートアップ主催「教育現場のためのAI活用セミナー」のうち、無料体験会（セミナーA）の内容をまとめた参加者・関係者向けガイドです。次ページ以降で領域A版・領域B版それぞれの当日プログラム・デモ・配布物を紹介します。

ゴール

「AIって自分にも使えるんだ」と実感してもらう。1つでも「帰ったらやってみよう」を持ち帰ってもらう。

カリキュラム（90分）

時間	内容
0:00～0:15	よくある誤解をほどく — 「難しそう」「自分には無理」「もう手遅れ」をほどく5分生成AI概論＋文科省ガイドラインの要点
0:15～0:55	デモ3本 — 保護者向け連絡文／小テスト・対策プリント／お知らせ文を、実際の画面を見せるデモ形式で
0:55～1:20	体験タイム — 各自スマホでAIを触る。すでに使っている人は自分の業務で試す
1:20～1:30	質疑応答＋「持ち帰りプロンプト集」のお渡し

デモで見せる事例3本

1 保護者向け指導報告文の生成 生徒名・課題・目標を簡条書きで入力すると、丁寧な連絡文に変換。1通5分→30秒。	2 小テスト・対策プリントの作成 「中2・連立方程式・基本レベル・5問」で、即座に問題と解答が完成。	3 お知らせ文の下書き 夏期講習の案内文を30秒で生成。あとは自塾に合わせて手直しするだけ。
--	--	--

体験タイムで扱う「使える場面ベスト5」

具体的なプロンプト付きで「持ち帰りプロンプト集」に収録してお渡します。

#	場面	AI活用	削減時間の目安
1	保護者へのお知らせ・通知文	要点を簡条書き→丁寧な文章に変換	1通 5分 → 30秒
2	テスト対策プリント・宿題作成	単元・難易度・問題数を指定→問題＋解答生成	1枚 30分 → 5分
3	面談前の準備メモ	生徒の状況を入力→話すべきポイントを整理	15分 → 3分
4	問い合わせメールの返信	要件に応じた返信文の下書き	10分 → 1分
5	チラシ・SNS投稿文	塾の強みを入力→ターゲット別の文章生成	1時間 → 10分

数値について 上表は生成単体の最速例。公開LPの「時短めやす図」（例：連絡文 約30分→約8分）は推敲・確認を含む工程全体の保守的な目安で、ベースが異なります。

当日の配布物

MAT-01	AIスタートガイド — 今日から使える第一歩・全体像・よくある誤解（個人塾・学校向け）
MAT-02	2026年最新AIツール選定マップ — ChatGPT・Gemini・Claude・NotebookLM等の使い分け
MAT-09	塾でのAI活用3つのレベル — 自分の現在地と次の一歩が分かるレベル別ガイド
MAT-10	塾の仕事 × AI 活用事例集 — 業務別の活用ショーケース（持ち帰りプロンプト集の土台）
A4 1枚	ChatGPTアカウント作成手順 — スクリーンショット付き

ゴール

「禁止では守れない」を腹落ちさせ、自分の出している課題が"AI丸写しが効く課題"かどうかをその場で確かめる体験を1つ持ち帰ってもらう。

カリキュラム（90分）

時間	内容
0:00～0:15	「AIで学力は下がる？」— よくある誤解をほどく。研究は「使い方次第で両方の結果が出ている」：答えを出させる使い方は成績を下げ、ヒントに留める使い方は害がなかった海外RCTを紹介。生徒の利用実態＋文科省ガイドライン（Ver.2.0）の立場（禁止前提ではなく活用前提）を一次ソースを画面に映して提示
0:15～0:55	デモ3本（下記）
0:55～1:20	体験タイム：自分の課題のAI耐性チェック。普段出している宿題・課題を1つAIに解かせる→「30秒で解かれた」を直視→隣の先生と「どう作り替えるか」を1分ずつ共有
1:20～1:30	質疑＋「生徒指導用プロンプト集」のお渡し（MAT-11・12）

デモで見せる事例3本

1 同じ宿題、2つの頼み方 「解いて」と頼んだ画面と、ヒント縛りプロンプトで頼んだ画面を左右に並べる。後者はAIが家庭教師に変わる。持ち帰りの核。 答えは言わず、私の考えのどこが違うか段階的にヒントを。解いたら褒めて。	2 AIの誤りを生徒に検証させる授業 AIにもっともらしい誤答を出させ、「この中の間違いを出典を確認して見つけよ」という課題に変える。鵜呑み防止が批判的思考の教材に。	3 30秒で解かれる課題を作り替える 「〇〇についてまとめよ」型をAIが即答する様子を見せた直後、「自分の体験と結びつける」「対話ログごと提出」形式に作り替えてBefore/Afterを1枚で。
---	--	--

当日の配布物

MAT-11	生徒AI指導スタートガイド（A4×2） — 「思考停止する使い方／考えを深める使い方」の対照表＋声かけフレーズ10選＋文科省ガイドラインVer.2.0要点
MAT-12	課題のAI耐性チェックシート（A4×1・書き込み式） — 持ち帰って自分の全課題を診断できる
A4 1枚	実施概要＋ガイドライン要点まとめ（学校参加者・出張研修時） — 研修担当が管理職・職員会議にそのまま回覧できる体裁

運用の確認 使用ツールは無料版のみ。生徒の実名・成績は入力しない運用を冒頭で確認します。AIアカウントがない方はその場でスマホから作成できます（手順を画面投影で案内）。

この無料セミナーで扱わないこと

- × API連携や自動化の話（セミナーB・C以降で扱います）
- × 特定の有料ツールの推奨（紹介するのは無料で使えるツールのみ）
- × プログラミングが必要な内容
- × 課題の本格的な再設計演習・ルールづくり（セミナーB領域B版で扱います）

紹介する「無料で使えるAIツール」

ChatGPT 文章生成・教材作成・壁打ち全般 無料〜月2,700円	Google Gemini 長文要約・Google Workspace連携 無料	Claude 長文の文書作成・丁寧な回答 無料〜月3,000円
NotebookLM 教科書や資料をアップロードして質問 無料	Canva AI チラシ・SNSバナーのデザイン 無料〜月1,500円	Microsoft Copilot Word・Excel連携 無料〜

無料セミナー（セミナーA）・有料セミナー（セミナーB）では**無料ツールのみ**を使用します。APIの利用料が発生するツールは高額セミナー（セミナーC）でのみ扱います。

3つのステップでのセミナーAの位置づけ

STEP 1 — いまここ セミナーA（無料・90分） 無料 「AIって使えるんだ！」「禁止から指導へ動けるんだ！」を体験する。	STEP 2 セミナーB（有料・3時間） 5,000円 「業務に組み込めた！」「課題を設計できた！」ハンズオンで自分の手を動かす。	STEP 3 セミナーC（高額・6時間） 30,000〜50,000円 自塾に動くシステム／生徒に渡せるAIチューターを作る。
---	--	--

まずは無料で体験

スマホ1台で、AI活用のはじめの一歩を。

- ✓ 参加費無料・90分・前提知識不要
- ✓ 領域A版「校務の時短編」／領域B版「生徒のAI指導編」を別日程で開催
- ✓ 持ち帰りプロンプト集・スタートガイドなど当日資料つき
- ✓ 対面・オンライン・学校への出張教員研修のいずれにも対応

主催：学習塾ソートアップ（高須賢惇也） | 対象：塾・学校（私立・公立）・通信制高校の先生 | 想定10〜20名

seminar.thought-up.com

TEL: 089-989-2464

お申し込み・出張研修のご相談はこちら